

1 はじめに

本支部では、「衣生活に関する指導」の研究を始めて今年で4年目となる。1年目はアンケート調査より、小学校家庭科の授業での課題を受け、中学校で重点的に指導していくべき項目が明らかになった。それを受け2年目では、中学校でおさえなければならない基礎縫いの中の「まつり縫い」「スナップ付け」に重点をおき、視覚教材の作成と授業実践をおこなった。3年目は基礎縫いを使った教材の検討から、「ファイルカバー」「リバーシブルバック」の製作手順やポイントをおさえ、視覚教材の作成をおこなった。

今年度は、今までの研究をもとに「リバーシブルバック」の製作の中で、生活にいかせる工夫を取り入れることを検討し、研究を進めてきた。特に、「活用ポケットのデザイン」に着目し、各自のデザインについて発表し合い、アドバイスを受け、さらに考え、深める授業実践をおこなった。

2 研究経過

- 5月 研究組織づくり、研究テーマの確認、
研究内容・教材の検討
- 6月 研究授業の内容検討
- 7月 授業案・ワークシートの検討
年間指導計画の検討
- 8月 授業実践（山梨南中学校 古屋奈穂子教諭 「生活を豊かにするバック作り」）
- 10月 県教研レポートの検討

3 研究推進委員

永田恵子（玉宮小）
向山栄子（山梨北中） 古屋奈穂子（山梨南中） 鈴木美奈子（勝沼中）
藤本珠美（大和中） 深澤茉莉（塩山中）

4 研究テーマ

「未来社会・生活をつくる力を育てる技術・家庭科教育」

5 研究内容

○「衣生活」の研究を進めるにあたっての研究の柱を以下の3つとした。

①基礎・基本の定着

- ・目標とする姿を設定し、自己評価をさせていく。
- ・適切な自己評価ができるように、ワークシートを工夫していく。

②生活に活かせる工夫を取り入れた作品づくり

- ・誰が、いつ、どんな場面で使うのか等の作品の活用場面を考えることで、必要となる工夫を作品づくりに反映させる。
- ・作品づくりで、生徒が工夫できそうな内容を、教材化しておく。

③言語活動の充実

- ・班での話し合い活動を意識的に取り入れていく。
- ・自分の考えを書き込むことができるように、ワークシートを工夫していく。

以上のことをふまえ、昨年度までに製作してきた視聴覚教材を有効に活用しながら、基礎縫いの定着を図り、「リバーシブルバックの製作」の中に生活に活かせる工夫を取り入れ、授業実践をおこなうこととした。

○授業実践

本研究の授業実践として「生活を豊かにするバック作り ～活用ポケットのデザインを発表しよう」をおこなった。

①本時の授業実践をするにあたり、取り組んできた関連のある学習内容

- ・基礎縫いの定着 → 手順カードと視聴覚機器を活用して、わかりやすい授業を実践した。
- ・基礎縫い診断テスト → 技能の習得を確認し、デザイン決定の参考資料とする。
- ・ポケット画像の収集 → ポケットのデザイン決定や製作への興味関心を高める。
- ・ポケット見本の提示 → 製作可能な見本から、デザイン決定の参考とする。

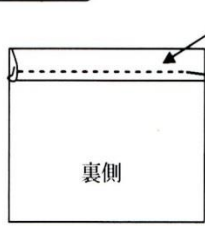
②本時の展開部分での工夫

- ・発表の方法・アドバイスの観点を明確にして、生徒に提示する。このことによって、聞く側も発表を聞く時のポイントをはっきりとさせる。
- ・自分のデザインの工夫を発表し、アドバイスしあうことで、もう1度自分のデザインを振り返り、再考することにつなげた。

ポケット付けのポイント

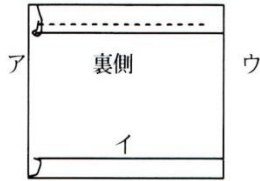
①

布に縫い付ける前



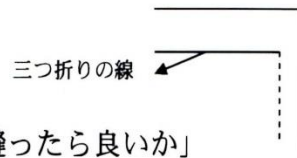
1) アイロンを使って三つ折りにする。

2) この部分は①ミシン直線縫い
②まつり縫い(手縫い) } どちらかの縫い方で始末
をしておく。



3) 2) を縫った後、アイウの部分をアイロンで裏側に一度折る。

縫い方例3) 小ポケットの場合

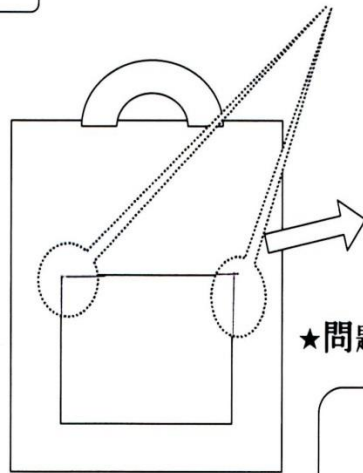


②

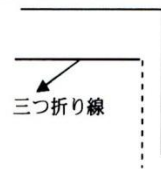
ポケットつけ

★ 問題1 「この部分をどう縫ったら良いか」

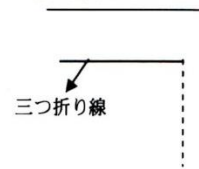
ぬい方



縫い方例1)

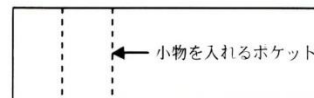
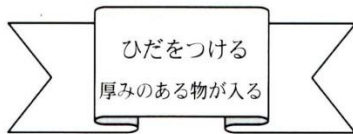
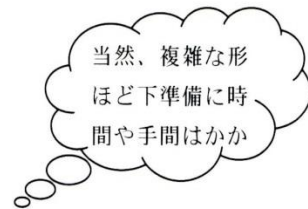
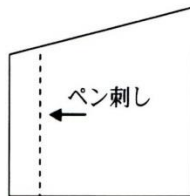
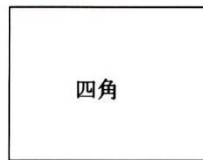


縫い方例2)



★問題2 なぜこのような縫い方をするか

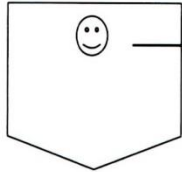
形・デザイン例



組 番 氏名 ()



付
属
品



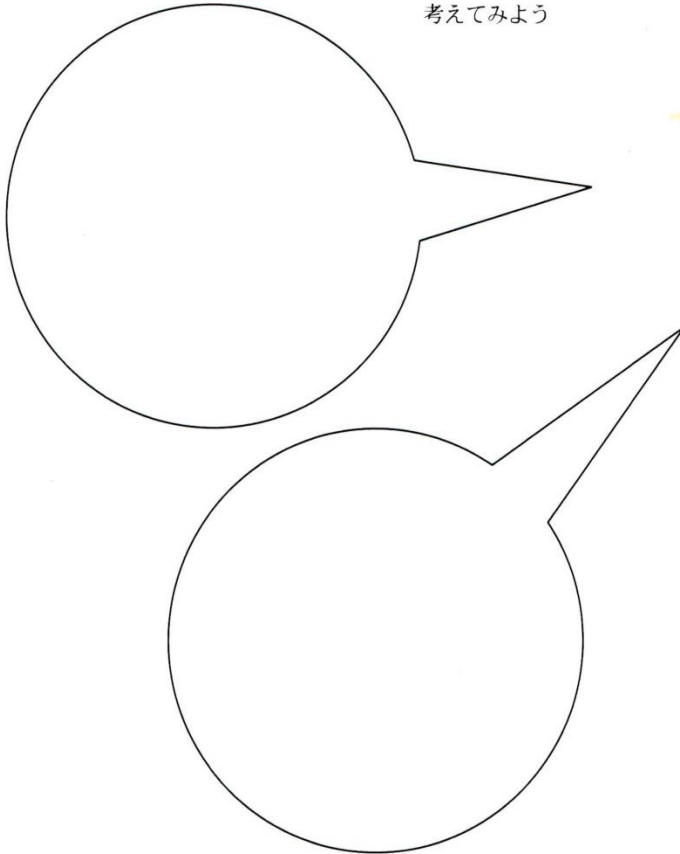
布の内側にスナップボタンをつけると・・・

布の表側に飾りボタンをつけると・・・



そ
の
他

その他、考えられるアレンジは？ポケット画像を参考に
考えてみよう

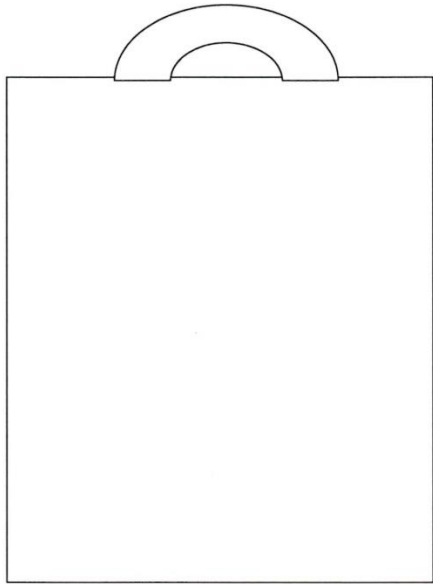


便利ポケットを考えよう

組 番 氏名 ()

私のデザイン

*下のバックにデザインしてみよう



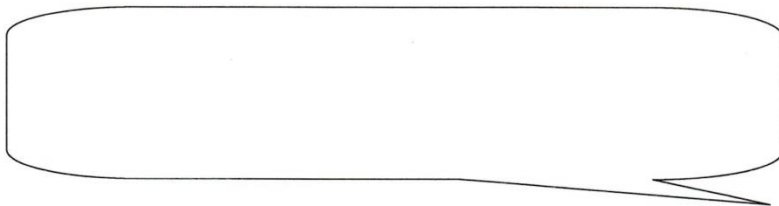
この形にした理由

(誰のため?使う場面は?)

工夫したいところ (形・縫い方・布地・付属品などから考えよう)

気をつけたいこと

(縫い方順・縫い方・道具や布の扱い等)



先生アドバイス





便利ポケットを考えよう

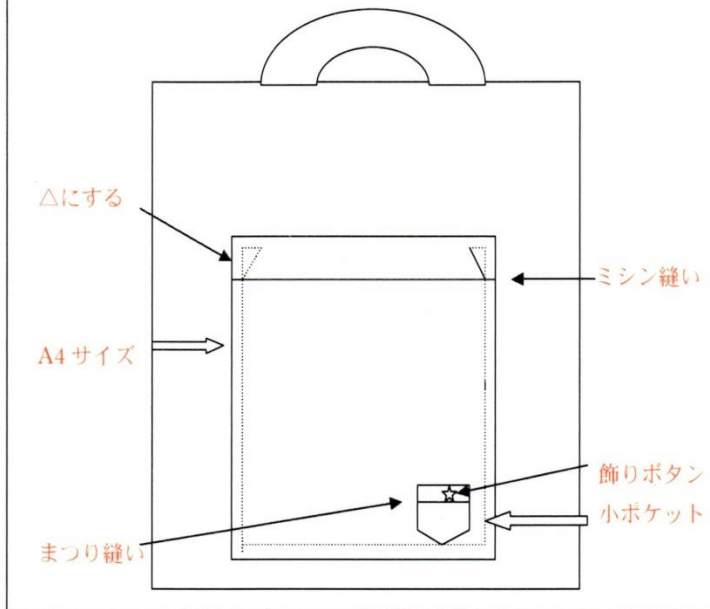


書き方例

組 番 氏名 ()

私のデザイン

* 下のバックにデザインしてみよう



この形にした理由

(誰のため? 使う場面は?)

私はこのバックを学校で使う教科書や体育着などを入れようと思います。

ですので、ポケットも少し大き目につくり、A4のファイルなどを入れたいと思います。袋の中にファイルを入れてしまうと、他の荷物で折れてしまうかもしれないので、折らずに持ち運びができるように考えました。バックに対して大きすぎるとポケットのイメージが無くなると思ったので、右下に小さな飾りポケットをつけようと思います。

工夫したいところ (形・縫い方・布地・付属品などから考えよう)

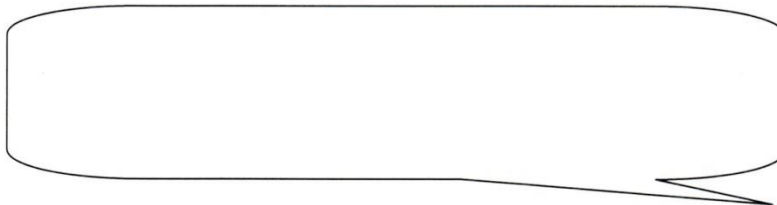
- * 大きいポケットに小さいポケットをつけ、デザインを楽しむ
- * 大きいポケットを縫い付ける時の糸の色を布と対照的な色にして、目立たせたい。

- * ポケットの布はバックと同じ綿の布で無地の物を準備する。
- * 飾りボタンは、小学校の時配られたボタンを活用する。
- * ポケット口は大きい方が3つ折りミシン縫い、小さい方をまつり縫いにする。

気をつけたいこと

(縫い方順・縫い方・道具や布の扱い等)

- * ポケット口は三角形で縫い丈夫にする。
- * 先に小ポケットを大ポケットに縫い付けておき、それをバックに縫い付ける。
- * 飾りボタンもつける
- * 小ポケットの袋口はまつり縫いにし色々な基礎縫いに挑戦する



先生アドバイス



友達からのアドバイス



組 番 氏名 ()

良かった点	アドバイスするとしたら

友達からの意見を聞いて「変更したい点」・「頑張りたい点」



6 成果と課題

○成果

- ・生徒達は、誰が・いつ・どんな場面で使うのか等の作品の活用場面を考えることや、先輩達の作品を写真で見たり、使用している姿を見ることで、より具体的に生活に活かせる工夫を考えることができた。
- ・本時の授業を行うまでの積み重ねとつながりを大切にすることが、生徒の意欲的な活動につながった。(基礎縫いの習得 → 基礎縫い診断テスト → ポケットの画像の収集 → ポケット見本の提示 → デザインの構想)
- ・ワークシートが工夫されていたり、教師側からの与える情報がたくさんあったことで、自分の考えをしっかりとまとめ、発表することができた。また、友達に対してもアドバイスをすることができた。
- ・考えを発表することで、自分のデザインの良さを友達に認めてもらうことができ、製作への意欲につながった。

○課題

- ・今まで学習してきたことをいかし、それを活用する授業を考え実践したが、生徒達の意識は高く、自分の思いを様々なデザインと言葉で表現していた。これらの思いを実現するためには「基礎的な裁縫の技術・技能の習得」が必要となってくる。このため、少ない実習時間の中で、いかに基礎・基本を定着させ、到達度や達成感を持った作品作りをさせていくかが、悩みであり、これらのことを解決していくことが課題である。
この課題を解決していくために、自己評価のあり方の検討や活用を意識させ、目的に合わせた作品作りを目指すことができるように、さらに研究を続けていきたいと思う。
- また、多種多様な作品を生徒達が作ることにより、教師側の評価をどのようにしていくのが良いのかは、課題である。このことについても、研究・検討を続けていきたいと考える。

第2学年1組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 山梨市立山梨南中学校

教諭 古屋奈穂子

1 題材名「生活を豊かにするバック作り」 (C-3)

2 題材設定の理由

便利で、様々な物が簡単に手に入る現在、コンピュータや携帯電話などを操作したり、情報を取得・伝達することは安易にできる生徒達であるが、何もないところから自分の力で作り出していくといった経験は浅く、既製品を使うことが当たり前になっている傾向が伺える。また、身の回りのものを自分なりに使いやすく工夫したり、壊れたら修繕するなどといった経験もあまりみられない。

本校生徒のもの作りに対する実態は、「ものを作る事は好きであるが、布を用いたもの作りをすることは少ない」傾向にある。その理由として、「面倒である」と答えた生徒もいたが、大半は「裁縫の仕方が分からない」「上手くできない」などといった技術面での困難さを訴えるものが多かった。

このように裁縫の機会が少ない中学生の実態を踏まえ、基礎縫いの定着をはかれるように学習を行った後、小中学校で習得した「基礎縫い診断テスト」を実施した。そして、その結果を参考にしながら「布を用いたものの製作」(リバーシブルバック)では、基礎縫いで学んだ技術が生かせるようにポケット製作を取り入れた。

生活に生かせるポケットのデザインを通して、学習課題を見付け、「計画・実践・評価・改善」という問題解決的な学習過程において言葉や図表、概念などを用いて自分の考えを説明したり、表現したり、話し合ったりする言語活動の充実も取り入れながら、基礎縫いの知識を基に、個性や工夫が生かせるような製作となるようこの題材を設定した。

製作を通して、ものを大切にしようとする姿勢を養い、完成後に活用することにより自分や家族の生活が豊かになるような「もの作り」をめざしたい。

本題材を学習するに当たって本校2年生が次のようなアンケートを行った。

(回答数 136名 男子 65名・女子 71名)

	とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
ものづくりが好きですか	44.8%	51.4%	8.8%	2.2%
布を使ったものづくりが好きですか	27.9%	52.2%	15.4%	4.4%
	ある	ない		
家庭で裁縫をする機会がありますか	51.4%	49.2%		
授業以外で布を使って何か作ったことがありますか	55.8%	44.1%		
布を使って、元の形を自分でアレンジして着たり使ったりしたことがありますか	20.5%	79.4%		

3 題材の目標

・リバーシブルバックの製作を通して、衣生活・住生活に関心を持ち、布を用いたものの製作についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに使いやすく生活を豊かにするバックを製作するための工夫ができるようにする。

4 生徒の実態

男子17名、女子17名 合計34名（特別支援学級在籍生徒1名）のクラスである。学習に向かう姿勢は前向きであり、出された課題は一生懸命に取り組んでいる。

しかし、小学校での被服学習に苦手意識をもっている生徒が全体の約3割はいる。特に基礎縫いの中の手縫い（玉どめ・玉結び・なみ縫い）においては学習したことを忘れてしまっている生徒が多い。そのため、視聴覚教材や作業手順パネルなど視覚に訴える教材教具を使って、作業方法について理解をさせ、苦手意識を無くすことができるよう取り組んできた。

話し合い学習を通し、お互いの考えを共有することでより多くの情報を得、もの作りへの関心・意欲を高めると同時に積極的な学習態度を養えるよう取り組んでいきたい。

5 指導と評価の計画

衣生活、住生活などの生活の工夫（全 12 時間）

- (1) わたしや家族の生活を豊かにするバックづくりを考える・・・3時間（本時3／3）
- (2) デザインしたバックを製作する。・・・8時間
- (3) 製作したものを互いに発表しこれからの生活に生かす。・・・1時間

時間		ねらいと学習活動	評価			
			関意態	工創	技能	知理
3	1	①自分や家族の生活を豊かにするもの考える ・ポケットについて種類や製作方法を学ぶ。				○
	1	・基礎縫いを活用したデザインを取り入れ、生活を豊かにするための工夫をする。 ・基礎縫いの学習を生かし、自分の技能にあった方法を取り入れてデザインをする。	○	○		
	1 本時	・発表会を通して、作品に盛り込まれた工夫点や活用方法を知り自分の考えを発展させる。 *自分で考えたポケットについて発表する *友人のアドバイスを聞き、デザインの修正・確認をする。	○	○		
8	②布を用いたものの製作 ・自分の考えたデザインを取り入れ、リバーシブルバックを製作する。	○		○		
1	③製作したものについて発表する。 ・自分の作った作品について発表し合い、取り組みの様子や様々な工夫について知り、言葉でまとめることができる	○				

6 本時の学習

(1) 日時 平成 25 年 8 月 30 日

(2) 場所 山梨南中学校 被服室

(3) 題材 「活用ポケットのデザインを発表しよう。」

(4) 本時の目標

- ・自分で考えたデザインや活用方法を発表しあい、友達からのアドバイスを受け、自分のよりよい活用ポケットのデザインについて、考え工夫することができる。

(5) 本時の評価計画

関 意 態	工 創	技 能	知 理	A 十分満足できると判 断される状況	B おおむね満足でき ると判断できる状況	C 努力を要する状況に ある生徒への支援	評価方法
○				自分の考えたデザインや活用方法をわかりやすく発表し、積極的に作品作りに生かそうとしている。	自分の考えたデザインや活用方法を発表し、作品作りに生かすことができる	自分の考えたデザインや活用方法が発表できるよう支援する。	発表
	○			友達からのアドバイスを受け、自分の活用ポケットのデザインについて、様々な視点から考え、工夫している。	友達からのアドバイスを受け、自分の活用ポケットのデザインについて考え、工夫している。	友達からのアドバイスを受け自分の活用ポケットのデザインについてポイントを絞って聞き取るように支援する。	発表 ワークシート

(6) 本時の展開

	学習内容・学習生活	指導上の留意点	評価・その他
導 入 5	1 前時までの流れを確認する。 2 本時の学習内容の確認 活用ポケットのデザイン発表	*プリントの確認 *本時の学習内容を伝える	ファイル
展 開 35	3 発表の方法とワークシートへの記入方法を知る。 発表 ・時間は1人約2分。ワークシートを利用して説明をすすめる。 記入 ・時間は1人に対して約3分。 良い点・ ・ ピンク色の付箋紙	*ワークシートに沿って説明をする。 *わかりやすい発表ができるよう、発表方法の確認をする。 *発表者のデザインで良い点やアドバイス等を付箋に記入し	「アドバイス用」のワークシート 「発表用」のワークシート 色違いの付箋 2 種類

	<p>アドバイス・・・水色の付箋紙 付箋紙の下に記入者の名前を書く</p> <p>・全員の発表が終了したら、アドバイスを参考にデザインの修正・確認を行う。</p> <p>4 友人へのアドバイスの観点を知る 1)活用方法に適した工夫がされているかどうか 2)ポケットの製作に時間の制限があること 3)基礎縫い診断の結果を参考にすること 4)材料費・用具の準備が可能であるかどうか 5) ポケット製作にかけられる時間は約2時間</p> <p>5 各班ごと自分のデザインしたバックを発表し合い、「よい点・アドバイス」を付箋紙に書く</p> <p>6 友人のアドバイスを受け、再度自分のデザインを振り返る。</p>	<p>ワークシートに貼ることを伝える。 *友人へのアドバイスの観点を板書する。</p> <p>*友人からのアドバイスを踏まえて修正・確認することを伝える。</p> <p>*机間指導を行う。</p> <p>*生活に生かせる工夫点やデザインについて考えたことを評価する。</p>	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・ワークシート <p>〈関・意・態〉 〈工・創〉</p>
<p>ま と め 10</p>	<p>7 代表者が発表をする。</p> <p>8 次回の予定を知る</p>	<p>*教師が指名する。(1～2名) *モニターを使って発表をする。 *友人からのアドバイスをもとに修正・確認した内容を発表する</p> <p>*次回は製作計画を立て、製作に入ることを伝える。</p>	<p>ビデオカメラ 大型 TV</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表

7 授業の反省

授業を終えて、まず生徒たちのポケット作りへの意欲が高まったことを感じた。

事前の授業で、バックの使用目的にあわせてポケットのデザインや活用方法を考えたが、それぞれが目的を持って作ろうとしていることがワークシートへの記入から伺われた。

また、友達の発表に対して返すアドバイスについても、ただ、「よかった・悪かった」だけでなく、できるだけ具体的な言葉を使って伝えることができていた。グループ内での発表会であったが、どの生徒も自分の意見を持って発表会に臨んでいたと思う。

しかし、そんな意欲を持った生徒たちに対して、自分のデザインしたポケットが実際に作れるのかどうか、より現実的に想像させることについては難しかった。

個々の生徒が考えたポケットは、様々な形、大きさ、デザインがあり、それを形にしていくことで、もの作りへの意欲・関心を高めることにもつながる。しかし、作りたいものと作れるものとは別である。それだけに、できるだけ現実的な視点を持ってポケットのデザインができるように授業を進めていく必要があることを強く感じた。

今回の授業では、以前に行った「基礎縫い診断」の結果を利用することで、自分がデザインしたポケットが作成可能かどうか、友達の意見も参考にしながら考えてみたが、実際に製作する時間や製作の順番など、細かいことを予想することは難しいと思った。

また、発表の仕方についても、声の大きさや発表する速度、デザイン画の見せ方など、ちょっとした工夫でわかりやすい発表ができることを感じた。これは、家庭科だけでなく、様々な場面で日常的に経験していく必要がある。

今回の授業は、今まで学習してきたことを生かし、それを活用する授業であったが、生徒たちが創意・工夫をする前に、「製作についての知識・理解の定着」が図られていることが大切であること、そして、それを現実のものとして作り上げていく「基礎的な裁縫の技術・技能の習得」の必要性を強く感じた。

自分のデザインしたものが形となり、生活に活用できることの楽しさを一人でも多くの生徒たちが感じられるような授業の展開について、さらに研究していきたい。